

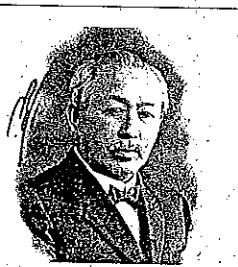
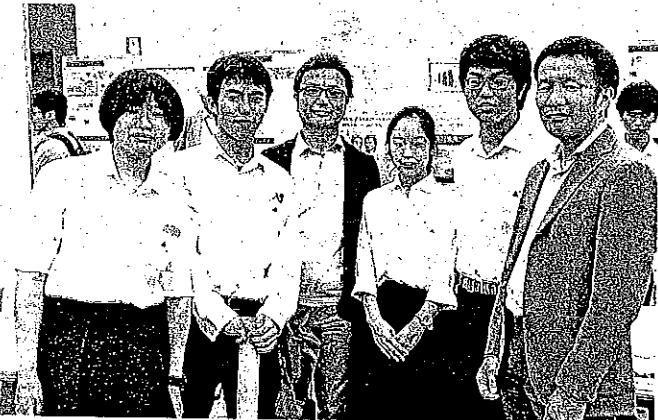
ニチヤン

徳島市立高 歴史研究部

徳島市立高校の歴史研究部と徳島文理高校の郷土研究部が、東京都内で行われた「高校生ボスターセッション」(日本考古学協会主催)で研究成果を発表した。両校とも徳島市出身の考

古学・人類学者鳥居龍蔵(1870~1953年)についてまとめ、全国から参加した10校中、第2席に当たる優秀賞をそれぞれ受賞した。研究内容と喜びの声を聞いた。(田尾聰)

鳥居龍蔵研究で全国第2席



◆鳥居博士はこんな人。徳島市東船場で生まれ、独学で人類学を学んだ。20歳で上京し、東京大学で人類学教室標本整理係を皮切りに講師や助教授を務め、1921年に文学博士となった。

◆何を研究した? 人類学や民族学、考古学などを研究し、さまざまな民族の体格や言語、生活文化などを幅広く調査した。国内はもちろん、シベリアや中国西南部など東アジア各地、南米などを訪れ、古代の遺跡などを調べた。

◆功績は? 日本人や日本文化の起源を明らかにすることを目指し「有史以前乃日本」などを著した。

◆県内では? 城山貝塚の発掘調査をはじめ、木頭地方の民俗調査など多くの成果を残している。

論文の正確さ確認

鳥居龍蔵研究を続けている徳島市立高の歴史研究部は、部内交代引き継がれてきた成果を交えながら「鳥居龍蔵の見た『日本』」と題してポスター発表を行った。

生駒杏部長(17)は

「私たちの熱意と研究の深さは、他校に負けない自信があった」と振り返った。

発表したのは生駒部長と、笠井瑠夏さん(17)、川上菜月さん(17)、益田明英さん(17)の4人。

鳥居が高校の歴史の

教科書でどのように取り上げられてきたかを示した上で、鳥居の台調査の内容を分析した。先住民の身体的特徴を記した「調査表」と「スケッチノート」を大観学に訪れた川上さんは、ポスターにては、鳥居研究の専門家や海外の研究者が結論づけた。

益田さんは「単に鳥居の研究成果の正誤をまとめてきれなかった部分を、約1時間にわたり説明し続けた。鳥居の研究結果を改めて分かり、成果を肯定できる発表になつた」とも指摘を受けたけれども、発表しながら鳥居を見込んでいたが、逆に鳥居の論文の正確さを思ひ知る結果になつた。「鳥居のすごさが思つ」と成長を感じた様子だった。

た

益田明英さんは「専門家から主觀が入った内容になつていて、私たちが何者かを考えるきっかけになつた」と話した。今後は今回の研究内容を論文にまとめて県立博物館に寄稿する予定。生駒部長は「後輩がさらに研究を発展させられるように成果を引き継いでいく」と声を弾ませた。

ポスターセッションで発表した徳島市立高の4人。
左から)川上さん、益田さん(1人空いて)、生駒さん、笠井さん(東京都の明治大)